

## 留学報告書 2024 年度 交換留学 佃柚希

私は 2024 年 2 月から 2025 年 1 月まで、約 1 年間文藻外語大学で留学しました。天理大学から台湾で唯一の外国語大学に交換留学する最初の学生となり、誰も行ったことのない大学に初めて行ける喜びと、何もわからないという漠然とした緊張を感じていました。台北に比べ、高雄についてはあまり知識がなく、不安もありましたが、高雄の人々はとても温かく、よく行く朝市の販売員が顔を覚えてくれて、果物をおまけにくれることもありました。

大学の建物は歴史的なレンガで作られており、キリスト教系の学校なので、キャンパス内には教会もあります。学校では 2 ヶ月に一度、小さなマーケットが開かれ、たくさんの学生で賑わいます。また、12 月には大きなクリスマスツリーが設置され、点灯式が行われるなど、学生向けのイベントも盛況に開催されていました。

留学生には、国別に生活サポートをしてくれるバディ制度があり、事前に大学についていろいろと質問できました。授業については、交換留学生向けの中国語の授業のほか、一般の学生と一緒に授業を受けることもできます。しかし、一般の授業を受けるためには、履修登録期間中に教授に直接サインをもらわなければならず、最初は大学に慣れていなかったため、教授によっては授業を受けることを断られることもありました。その際、「その中国語のレベルでは、この授業を受けても理解できないから受けないほうがいい」と言われ、落ち込むこともありました。日本ではこんなにはっきり断られることがなかったので、履修登録期間が一番辛かったと感じます。それと同時に、精神面でも一番鍛えられたと感じています。

留学生向けの中国語の授業では、クラスの人数は 16 人で、日本人は 3 人と少なく、フランス人が最も多かったです。ヨーロッパ出身の学生が多く、授業外では英語で話すことが多かったです。間違った英語を使っていると、友達が直してくれることも多かったので、私にとっては中国語だけでなく、英語の勉強にもなりました。

一般的の授業では、主に應用華語系という中国語教師を目指す人たちが多い学科の授業を受けていました。日本の授業と最も異なる点は発表の多さです。中間テストと期末テストの 2 種類があるほか、授業内でグループ発表をする機会が多くありました。グループのメンバーは自由に選べたので、私は毎回台湾人の中に混ざっていました。意思疎通が難しいこともありましたが、日常生活で使う言葉以外にも多くのことを学び、とても勉強になりました。

また、留学生担当の事務室は外国語学部の高校生が対応していることが多く、英語のみ使用可能という決まりがありました。英語が苦手な私にとっては、かなり難しく感じました。しかし、事務室には常に誰かがいて、わからないことがあればすぐに聞きに行くことができま

した。さらに、専用の LINE も教えてもらい、メールでのやり取りもできるので、さまざまなか面でサポートを受けることができました。

日常生活では、大学周辺にたくさんの飲食店や薬局、文房具屋などがあったので、困ることはありませんでした。最寄りの捷運から大学まではバスで約 20 分、町中にある自由に使える自転車で約 15 分と少し離れています。私はバスよりも自転車の方が速いので、よく自転車を利用していました。高雄市は観光地や人が集まる場所が固まっていることが多く、1 日でいろいろな場所に行くことができます。船で約 5 分の距離にある少し離れた島には砂浜があり、日没を眺めながら、大学周辺の街並みとはまた違った雰囲気を楽しむことができました。

国籍が異なる人たちと生活することは私にとって初めての経験で、多くのことを学べる機会でもありました。助けてもらいながらの留学生活でしたが、改めて英語の重要性と外国語を学ぶ楽しさを感じることができ、この大学に留学して良かったと心から思っています。